



ゆうこみゆき Vol.86

なるほどアイヌ文化エッセイ

# ソノコ de ソノコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!  
本田優子と村木美幸の二人が、  
その魅力を交代で執筆する  
ソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



村木美幸  
(アイヌ民族文化財団  
常勤理事)

今月のテーマ  
**アイヌの被りもの**  
ーサパウンペとマトンブシー

「この若い兄ちゃんたちサパウンペ被ってるけど、若いものはする(=被る)もんじゃないうって、おらほではゆうんだよね。」と、アイヌ民族博物館でのカムイノミ(神への祈り)で言われたことがあります。このサパウンペ、成人男性が正装する際の被りもので、祈りの際には人間を補佐する強い力があると考えられ、その形状や素材から冠や幣冠ひかんと訳されます。被る、被らないには地域差があったようで、白老ではイヨマンテ(クマの霊送り)のような重要な儀礼では被



イラスト/ 莊田悠人

り、葬儀では被らない、と使い分けたといえますし、十勝では儀礼の祭司だけが被り、道東では殆ど被らなかつたなどさまざまです。サパウンペを被るといふことは一人前の大人である証なので、若者は憧れるでしょうね。カムイ(神)への贈りものであるイナウ(木幣)の材料と同じヤナギなどを薄く削ったイナウル(削りかけ)で作られ、中央にはクマヤオオカミなどの動物を象った木彫の装飾や動物の爪や歯が実際につけられたものも。虻田の亮昌寺に納められたエカシツッカ翁が使用したサパウンペには大きなアオザメの歯(下顎骨)がついていて迫力満点です。



今回のテーマは「バンクルーカラスー」  
本田優子(札幌大学教授)  
が担当します。

女性の正装でよく目にする被りものは、マトンブシヤチパヌフと呼ばれるいわゆる鉢巻。マトンブシは、男女とも被られるもので、きれいな刺繍や切抜き文様が施されます。文様部分を額の中央にして後頭部で結ぶものや後頭部で交差させて前面で結ぶもの他、輪状のものもあります。樺太で使われた輪状のヘトムイヘは、カラフルな刺繍や大小のビーズが付けられることもかわいい被りものです。チパヌフは、光沢のある帯状の絹布が多く使われる女性の被りもので、刺繍などの文様の有無よりも巻き方が重要であったといえます。後頭部で結んで垂布が腰まで届くような長いものから、二重巻きにして垂布を両耳横で帯に挟んで下げるもの、布を部分的に捻って交差させるものなどシーンによっていろんな巻き方があります。

サパウンペやマトンブシは、正装を引き立たせる素敵なアイテムですよ。



- 本田優子(ほんだゆうこ): 金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき): 白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうたゆうと): 平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。